

医師の労働時間短縮のための手技に関する検討

研究分担者 掛地 吉弘 神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野 教授

研究要旨

医師業務の中で、患者への説明・同意書の作成に時間をとられており、特に検査や侵襲的手技についてのものが多かった。汎用性の高い造影CT、上部消化管内視鏡検査、麻酔、輸血、手術について動画資料を作成し、情報伝達効果と労働時間短縮効果を検討した。また、現在の説明・同意取得に要する時間のアンケート調査を計画し、改善策を施した後の実際の改善効果を今後検証していく。

A. 研究目的

医師の時間外・休日労働の上限規制が適用される2024年4月に向け、医師労働時間短縮計画を作成する必要がある。医師の労働時間の正確な把握と、医療従事者の合意形成のもとでの業務の移管や共同化が求められる。

本研究においては、1. 勤務医の労働時間の実態と働き方に対する意識を把握する、2. 医師業務で時間をとられている患者への説明・同意書の作成を特定・抽出し、動画資料の作成による業務負担軽減を図る、ことを目的とする。

B. 研究方法

1. 医師の働き方改革に必要なタスクシフティングにおいて、患者への説明、同意書取得の補助となるような資料の作成（DVD・動画の作成、予診に必要な情報収集のリスト化等）を行った。図1-1、1-2に資料の一部を示す。

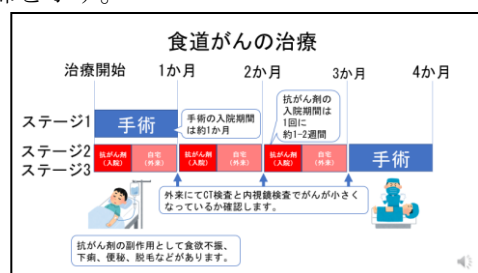


図1-1: 食道がん手術の説明資料の一部



図1-2: 食道がん手術の説明資料の一部

2. 資料の作成を行う上で、臨床現場において各医師が説明と同意の取得に要する時間がどの程度要されているのか、アンケート調査内容について検討した。

C. 研究結果

1. 研究代表者の所属施設において「造影CT」、「上部消化管内視鏡検査」、「麻酔」、「輸血」、「手術」についての患者さんへの説明動画ビデオが作成され、班会議で確認し、評価した。いずれも平易でわかりやすく、イラストも多用して視覚的にも内容の理解を助ける様式になっていることを確認した。当科においても患者への手術説明の動画スライドを作成した。「食道がん胸腔鏡下食道全摘術」、「胃がん腹腔鏡下幽門側胃切除術」、「直腸がんロボット支援下直腸低位前方切除術」を作成し、委員で共有して評価している。

2. 臨床現場において各医師が説明と同意の取得に要する時間がどの程度要されているのか、本アンケート調査はその実態について調査することを目的としている。医師を対象として、「臨床業務において説明と同意の取得に費やす時間について」および「説明補助となるような資料の作成について」回答を求める内容になっている。

D. 考察

1. 患者および家族に繰り返し説明する基本的な部分について、説明動画を作成し、必要かつ最小限の内容を短時間で効率的に伝えられることを目指した。幾つかの説明動画をもとに実際に使用してみて、その効果を今後検討していく方針が確認された。また、病院内の各部署に説明動画を紹介し、各々の部署に合わせて説明資料を作成していくことも提案されている。

2. 現在の説明と同意の取得に要する時間を調査・把握し、具体的な改善案を実行してそ

の後の時間短縮効果を確認していく。更なる時間短縮と働き方の効率化を検討し、医療の質を担保した上での、業務の効率化を図っていきたい。

E. 結論

勤務医は過剰な時間数での労働を強いられている実態がある中で、医師業務の移管や共同化が必要である。患者への説明・同意について、汎用性の高い動画資料の作成で医師業務の負担軽減を図っていく。

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし